

## 1 提案の概要

### （1）主張点

- ①つけたい力の明確化
- ②言語活動の選定
- ③子どもの主体性を生かした単元を貫いた言語活動の位置付け

### （2）具体的な実践

#### ①つけたい力の明確化

- ア 単元構成から 第一次・・・主教材文『ヒロシマのうた』から主題に迫る  
第二次・・・一次で読み取った主題を副教材文『伸ちゃんの三輪車』  
『戦争で死んだ兵士のこと』に重ねて話し合う  
第三次・・・これまでの並行読書とも併せてミニポスターづくり

#### イ 並行読書を通して

主教材文、副教材文と同様の主題を感じることでできる図書を読み重ねること  
で、自分なりの主題観を確立する。

#### ②言語活動の選定

- ア 主教材文から・・・時系列に出来事の展開や登場人物の心情の変化を読み取り、作品が最も強く語りかけてきたことを手がかりにして、自分なりに主題を探る。
- イ 副教材文から・・・主教材文から読み取った主題をもとにして、「登場人物の心の動き」について想像をふくらませて読む。

#### ③子どもの主体性を生かした単元を貫いた言語活動の位置付け

- ア 『ミニポスターづくり』・・・主教材文と主題観が明確に重なった図書一冊を取り上げる。内容は、「題名」「作品からの引用（強く語りかけてきたことのもとなる文）」「主題」に絞る。
- イ ゴールを見据えて学習に取り組み、多くの図書を読んだり、教材文と読んだ本を結びつけたりする。

## 2 成果

- 主教材文からつかんだ主題をもとに様々な作品と向き合うことで、文章全体や作品間のつながりをとらえることができた。
- 自分や友達の読みを視覚的にとらえられるように工夫したことで、グループ交流に深まりが生まれた。
- 小グループ対話により、主題観に根ざした意見や感想が出され、つないだ話し合いを深めることへとつながった。

## 3 課題

- 自分の考えをつくる時間を確保し、交流活動を充実させる。自ら学ぶ手立てを身に付ける。
- 児童の側に立って、教材の特徴やそれを生かす単元を貫く言語活動、育てたい力に応じた単元構成を行う。